

## 第26回島根乳腺疾患研究会

日 時：2019年3月23日(土) 13:45~17:00

会 場：松江テルサ 4階 大会議室

〒693-0003 松江市朝日町478-18 TEL.0852-31-5550

当 番  
世話人：松江市立病院 乳腺・内分泌・血管・胸部外科 内田 尚孝先生

共 催：島根乳腺疾患研究会 アストラゼネカ株式会社

### 1. 手術を受ける患者への病棟での取り組み

松江赤十字病院看護部

井原 奈緒, 横地 恵美, 井川 莉沙  
吉野 静花, 菅井 志帆, 稲田 里美  
藤原 阿由, 廣富 亜紀, 坂本 美子  
奥名 美香, 藤井 和江

同 乳腺外科

村田 陽子, 楨野 好成, 曳野 肇

【要旨】乳がん手術は短い入院日数の中で看護・指導を  
実践していく必要がある。しかし当病棟では患者に不安  
を訴えられた時にきちんと対応できるか自信がない看護  
師が多いことがわかった。今回、乳がん看護の充実を  
図る試みとして、つらさのスクリーニングの検討とDVD  
視聴による知識の拡大を行った。その結果、告知を受け  
てからの時間の経過や治療の段階により不安が変化して  
いくことがわかった。看護師は、患者の不安を予測し、  
患者の問題解決の手助けをしていく必要がある。具体的  
にはパスを見直し関わるポイントを決め、継続看護の充  
実を図ることとした。

### 2. 精神疾患患者と歩みはじめた乳がん治療

安来第一病院一般科外来

福島菜穂子, 與倉 美雪, 田中 美帆  
伊藤 薫

同 乳腺外科

杉原 勉

【はじめに】病気が診断された際、その後の具体的な治  
療方針を患者本人および家族に説明した上で方針を決定  
していくことは、極めて必然的なプロセスとなっている。  
当然乳がん診療においてもまた然りである。しかし精神  
疾患を有する患者においては患者自身が治療方針を決め  
られないことも多く、治療方針決定に際して難渋するこ  
とは少なくはない。今回精神疾患患者・家族への意思決

定支援を通して歩みはじめた乳がん治療の乳癌事例を紹  
介する。

【事例紹介】60歳代女性で、統合失調症と精神遅滞あり  
当院精神科通院中。なお、患者のプライバシーに十分配  
慮し、ご家族から研究会での症例提示につき口頭で承諾  
を得ている。

【経過】高齢の母親と実弟夫妻と4人暮らし。キーパー  
ソンは実弟の妻(義理の妹)で、通院の同伴や内服管理、  
生活のサポートしていた。ある日右乳房腫瘍を自覚し義  
理の妹に「ここ見て」と相談。精神科受診の際に主治医  
に相談し乳腺外科へ紹介となる。初診時、簡単な指示に  
は応じるが会話は成立せずに視線も合わせず。視触診で  
は右乳房に50mm大の腫瘍があり。MMGは激しく抵抗し  
撮影できず。乳房USおよび単純CTはなんとか実施でき、  
右乳癌、腋窩リンパ節転移を強く疑う所見であった。  
がん拠点病院での精査治療を受けることを提案するも、  
患者本人は精神疾患から検査や治療の必要性が理解  
困難にて、義理の妹は経済的な不安を含めて標準治療  
を受けさせることができるかどうか不安な様子であった。  
関係スタッフのカンファレンスにて乳がん治療への阻害  
因子を抽出した上で外来診察の回数を重ねた。患者本人  
には信頼関係が築けている精神科医師から治療の必要性  
を説明してもらい、経済的な問題を抱える家族には、ま  
ず精神障害者年金受給者であることを確認した上で、今  
後予想される治療過程と受給による具体的な治療費負  
担軽減について説明を行った。具体的な治療費負担のイメ  
ージが可能になったことで、がん拠点病院での治療の同意  
を得て紹介となった。その後がん拠点病院の乳腺スタッ  
フの大変なご尽力もあり、右乳癌の確定診断と、外科的  
切除、中心静脈ポート留置にて術後補助化学療法(初回  
導入を経て当院へ逆紹介となった。当院再受診後、当初  
点滴治療を嫌がるようなしぐさをみせていたが、化学療  
法担当看護師を固定し患者本人および家族との信頼関係

を構築することで、外来通院にてパクリタキセル＋ハーセプチン治療を継続実施している。今では点滴終了後「また来るね」と言って帰宅され、化学療法で当院に行く日を楽しみにしているとのことであった。

【考察】今回乳がんの治療を実施できたのは、信頼関係が構築できている精神科医師からの説明、キーパーソンへの支援、経済的問題の解決、がん拠点病院との連携、当院化学療法担当看護師との連携、等の要因が挙げられる。我々はがん拠点病院と連携して、精神疾患患者や家族が住み慣れた環境で継続した乳がん治療を受けることができる支援体制を提供する役割を担っていることを改めて実感した事例であった。

### 3. 外国人乳がん患者の意思決定支援における言語の壁 ひゃくどみクリニック

伊藤 久子, 下条 麻子, 吉田 豊子  
井上 昌樹, 百留 美樹

近年、出雲市に居住するブラジル人が急増しており、2018年には3,000人を突破した。これに対し、出雲市では公共機関や教育機関にポルトガル語の通訳者の配置をすすめているが、医療現場における対応は遅れている。当院を受診するブラジル人患者の場合、雇用先の会社に専属する通訳者が付き添うことが多いが、医療用語の通訳に難渋することも多い。

特に、がん患者の場合、正確な情報が伝わっているかは患者の意思決定に大きくかかわってくるため、医療現場に専門の通訳者を配置するなどの体制を整える事は急務である。そこで、当院において、ブラジル人乳がん患者の意思決定支援をするにあたって気づいた問題点や当院での対応を報告し、今後の課題について考察する。

### 4. 保険薬局薬剤師の医薬品リスク管理計画 (RMP) の利用 ～CKD 4/6阻害剤による乳癌薬物療法の安全な遂行へ～

ファーマシ薬局・しまね薬局医大前店  
福間 宏, 熊谷 岳文

【目的】副作用リスクの高い抗がん薬は薬剤師による適正使用や安全管理が必要となる。医薬品医療機器総合機構 (PMDA) が公開している医薬品リスク管理計画 (RMP) には、医薬品の開発から市販後まで一貫したリスク管理がまとめられている。経口剤は院外処方が多いため、保険薬局薬剤師業務における RMP の利用について検討を行ったので報告する。

【方法】対象薬剤はホルモン感受性乳癌治療剤 CKD 4/6阻害剤とした。現在処方可能な薬剤の RMP に記載

されている情報および関連情報について、薬剤師業務への利用に関して調査した。

【結果・考察】薬剤師は安全性に関する情報を評価、提供しなければならない。さらに、患者の QOL の向上を図るという役割が求められている。しかし、利用可能な資材は多種多様で全ての利用は煩雑となる恐れがある。RMP は作成時点で考えるリスク管理の取り組みを文書化したもので、薬学的患者ケアに利用可能な情報源となりうる。

### 5. 乳がん手術後にリンパ管静脈吻合術および乳房再建 を行った症例の報告

松江市立病院形成外科

松井 雪子

同 乳腺外科

内田 尚孝, 松井 泰樹, 野津 長

【要旨】症例は54歳女性 左乳がんに対して大胸筋温存乳腺全摘術 左腋窩廓清 (A II) 術後 TC 療法を施行した。術後半年ごろより左上肢の硬さ浮腫、だるさを自覚し、浮腫の状態は比較的軽度であったが、早期加療が望ましいと考え全摘から8か月後に左上肢リンパ管静脈吻合術施行。また術前より乳房再建の希望があったため、その4か月後に組織拡張期による乳房再建を行っている。QOL を保つ目的もあり経過を報告する。

### 6. 薬剤関連顎骨壊死による口腔外瘻孔の QOL 改善に メトロニダゾールゲルが有用であった1例

島根県立中央病院乳腺科

渡部可那子, 高村 通生, 武田 啓志  
橋本 幸直

同 歯科口腔外科

片山 暁恵, 尾原 清司

症例は70歳代女性。1990年、40歳代時に左乳癌に対し Bt + Ax を施行、2008年に多発骨転移が出現し、化学療法に加え、骨修飾薬 (ゾレドロン酸、デノスマブ) も使用した。2013年に薬剤関連顎骨壊死が出現し、2017年には下顎辺縁切除術を施行されたが、徐々に増悪、経口摂取困難となり入院となった。入院時、口腔外瘻孔を形成しており、処置時に悪臭を認めた。メトロニダゾールゲルの塗布を開始したところ、数日で悪臭の改善を認めた。メトロニダゾールゲルは癌性皮膚潰瘍部位の殺菌・臭気の軽減に対する外用剤である。本症例は口腔外瘻孔部位の臭気であったが、口腔内に常在する嫌気性菌が原因と考えメトロニダゾールゲルを使用したところ効果を得られた。

## 7. 進行乳癌に対して、過酸化水素増感剤併用の放射線治療と外科的処置で局所治療した1例

島根大学医学部附属病院放射線治療科  
(\*宝塚市立病院放射線治療センター)

植 敦士, 伊元 祐貴, 徳堂 睦美  
稗田 洋子, 猪俣 泰典\*, 玉置 幸久  
島根大学医学部附属病院乳腺・内分泌外科  
(\*ひゃくどみクリニック)

高尾菜摘子, 百留 美樹\*, 板倉 正幸  
70歳代女性, 皮膚浸潤を伴う左進行乳癌の症例。自壊, 出血を伴い症状緩和目的に当科紹介となった。原発巣に対して, 70 Gy/35回 (X線60 Gy, 電子線10 Gy) を投与した。20 Gy以降はKORTUC I, I変法 (スプレー法), II を併用した。壊死した組織は適宜, 乳腺外科医師によりデブリードマンが施行された。治療により腫瘍は著名な縮小効果を認め, 局所制御できた。急性期に放射線皮膚炎 (Grade 1), 晩期に放射線肺臓炎 (Grade 2) の有害事象を認めた。過酸化水素増感剤併用の放射線治療に外科的処置を加えることで, より良い抗腫瘍効果が得られる可能性がある。

## 8. マンモグラフィと超音波の同時併用を可能にしたバス検診の実施状況と成績

島根県環境保健公社乳癌検診精度管理委員会  
(\*独立行政法人国立病院機構浜田医療センター乳腺科)

吉川 和明\*, 白澤 郁代

同 検診事業部

内田 量弘, 中筋 千草, 高橋 和子  
野津 尚之, 土谷 裕子, 青山 修治  
小西 努

【背景】高濃度乳房に対しても有効な同時併用 (マンモグラフィ (MG) を参照しながら超音波検査 (US) を実施する) 検診は, 県下では一部の施設で実施されるのみである

【目的】島根県環境保健公社でこのほど開始した車載型の同時併用検診システムを紹介する

【システム概要】①設備: MG 検診バスの後部にエラストやカラードプラーも可能な US 装置を設置 (日立アロカ製)。あわせてバス内, 松江本部, 浜田支所に読影ネットワークを構築 (ネットカムシステムズ) ②撮影, 走査, 読影: 乳がん検診精度管理中央機構の資格 (「」内) を有する診療放射線技師「MG 撮影技術, US 技術」, 臨床検査技師「MG 読影, US 技術」, 医師「MG 読影, US 読影」が担当。各々が判定を記載するため総合判定は3-4重読影となる③通知: 結果にあわせ, 年齢・乳房の構成などを参考に次回お勧めの検診方法を記載する

【実施状況】市町村からの依頼や30歳代の受診者も見受けられた。同じ体制下で行ってきたドックでの成績とあわせ報告する。